

平成 30 年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落協定の概要

都道県名：愛媛県

市町村名：宇和島市

島名：戸島

協定締結集落名：小内浦

交付金額：2,100 千円

(1) 基本交付金：2,100 千円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0 円

協定参加世帯数：25 世帯、52 人（うち漁業世帯 15 世帯、38 人）

2. 協定締結の経緯

集落協定を締結している戸島小内浦地区は、ブリの養殖、一本釣り等が盛んに行なわれている。しかし、魚価の低迷、不安定が長く続き島の活気が失われつつある。そこで地域漁業の活性化を図るとともに、集落の漁業生産活動が活発な状態となることを目指して離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

① 漁場の生産力の向上に関する取組状況

- ・アワビ・サザエ漁場の資源を守るため、車と船による漁場監視を 11 月に 10 回（延べ 84 名）実施した。
- ・戸島周辺海域の藻場が減少しているため、ウニ（ガンガゼ）の駆除を 6 回（延べ 86 名）実施し、藻場の回復を図ることとした。
- ・漁獲量が減少しているため、ウバメガシ等の木を利用し産卵礁を作製して漁場 3 カ所の海底に設置し、アオリイカ等の資源量増加を図ることとした。

② 漁場の再生に関する実践的な取組状況

- ・建て網漁業や一本釣りで水揚げされる未利用魚を加工して練り製品を作製し、集落内やイベント等で販売し増収を図ることとした。

③ 新規就業者に係る取組状況 なし。

4. 取組の成果

- ・車と船による漁場監視を実施することにより密漁を防止し、漁場の安全が保たれた。
- ・ウニ（ガンガゼ）を駆除することにより、ホンダワラやクロメ等の海藻類が確認されるようになり、徐々に藻場が回復している。
- ・産卵礁を作製して海底に設置することにより、産卵礁の周辺に稚魚や稚イカが多く確認された。
- ・建て網等で水揚げされる未利用魚を加工し、島内やイベントで販売することで漁業者の増収が図られた。



漁場の管理・改善（ウニ駆除）



海産物等の簡易加工（未利用魚）



漁場監視



産卵場整備